

調査事例：特殊健診〔鉛自覚症状の定期健診出現率〕

環境・健康

有害物質取り扱い作業場では作業環境管理等が進み、災害的なばく露を除き許容濃度を大きく上回るようなばく露はまれとなっています。鉛健康診断での自覚症状の定期健康診断での出現率を某健診機関での健康診断の受診者〔デスクワーク〕について調査した結果を下記表に示しました。

鉛のばく露で生じる症状は一般的なものであり（下記表）、受診者の症状が鉛の影響によるものかどうかを判断するには、生物学的モニタリングなどによりばく露量を把握する必要があります。なお、鉛については血液中鉛濃度が、体内ばく露のよい指標となります。

鉛健康診断での自覚症状の定期健康診断での出現率

自覚症状		出現率（％）			
鉛健康診断	定期健康診断	男性		女性	
		20～39歳	40～59歳	20～39歳	40～59歳
食欲不振	食欲不振	0.9	0.7	1.3	0.7
便秘	便秘	2.3	2.5	13.3	10.1
腹部の疝痛等	腹痛	1.1	0.9	2.1	1.2
関節痛	手足の関節が痛む	1.8	3.9	1.9	5.9
易疲労感	体がだるい	11.6	9.4	13.2	10.2
睡眠障害	なかなか眠れない	5.1	4.3	5.9	5.2
焦燥感	イライラしやすい	10.2	6.9	14.8	8.1

注）定期健診での問診項目〔自覚症状〕は、鉛健診での検査項目〔自覚症状〕と同一或いは準じた症状を選び調査した。

kes サポート

課 題	kes サポート
体内ばく露量の把握	生物学的ばく露モニタリング (生体試料中有害物質・代謝物等の測定)
体外ばく露量の把握	個人ばく露モニタリング (時間加重平均濃度の測定、経時的濃度の測定)
体外ばく露の情報	作業環境測定 (作業環境の管理区分)